を伴うものや報酬を得ているものについては、特にプロ意識が要求される。「プロなのかアマチュアなのか、見る側と本人とで意識にずれがあり、トラブルになることがある」と指摘する担当者もいる。

- また有職者や学生が多く仕事を終えた平日の夕方などに活動しているボランティアの現場では、「時間に遅れる、連絡なしに来ないなどのために、予定していた作業が進まない」という意見も聞かれた。

○ メンバーの固定化

- 新人の加入が少なく、メンバーが固定化する傾向が指摘されている事例もある。10年以上も活動している「喜多方プラザ文化センター」では、「あまりに第一世代のホールに対する思い入れが強いせいか、後に入ってくる新人にその想いを伝えられないでいる」という。
- また、メンバーに登録はしているものの、実際に頻繁に活動するメンバーは、時間的な問題や技術の格差から限定された少数になってしまう例もあった。
- メンバーの年齢層がある部分に集中している組織では、ボランティアの継続的な活動のためにも、「世代交代」への対応策を検討しておくべきではないだろうか。

② ボランティア参加者から見た問題点・課題

ボランティア参加者の側から見た問題点については、以下のような点があげられている。

○ 研修や講習の充実

- アンケート調査結果では、「研修や講習をもっと受けたい」が27.6%で最も多い。これについては、現状で十分な研修が行われていないという見方と、経験を重ねるにつれてボランティアの要求が高度化・専門化している向上心の表われであるという見方ができよう。
- 「喜多方プラザ文化センター」では、前述のとおり「技術面の向上を満足している点にあげた割合が62.5%と最も高かったものの、「研修や講習をもっと受けたい」を問題点にあげている割合も33.3%と高い数字になっており、後者の例といえる。
- 事例別での研修や講習への要望は、ボランティア制度を導入して2年目の「春日市ふれあい文化センター」が71.4%で最も高く、今後の活動の広がりが期待されるところである。

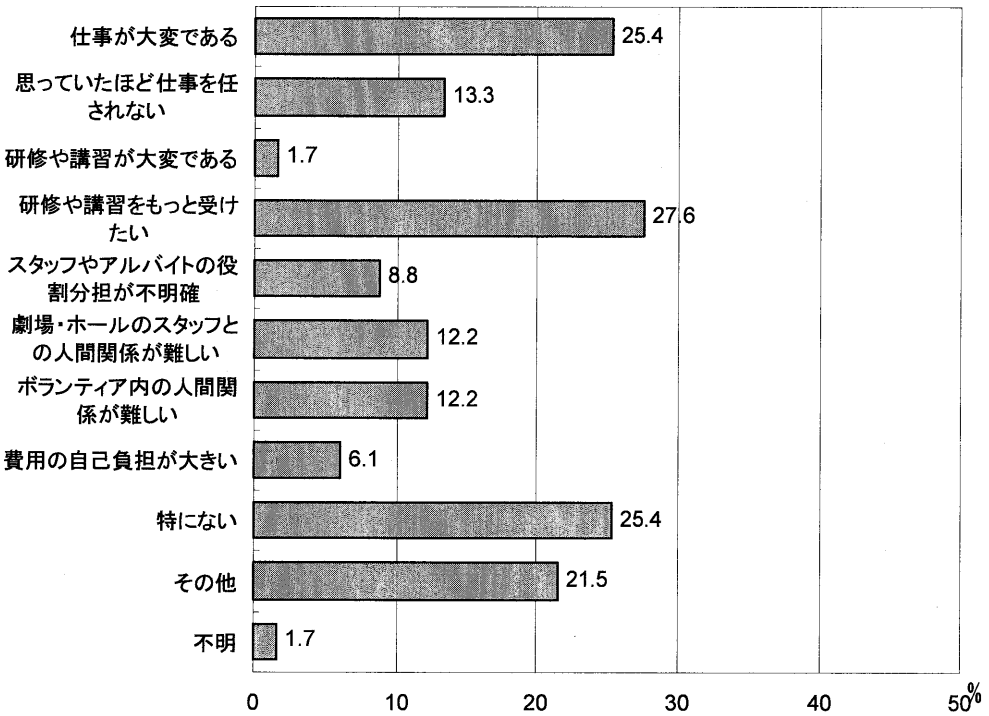
○ 業務量の適切配分

- 「仕事が大変である」と答えた人も25.4%おり、短期間に業務が集中する「武生国際音楽祭推進会議」では54.8%がそのように答えている。逆に「春日市ふれあい文化センター」では、57.1%が「思ったより仕事を任されない」と回答

しており、予想や期待と現実のギャップが現われている。

- 「いまだて芸術館」の企画プロデューサーの意見では、国内外のアーティストへの対応や事業の事後処理、個別の作家の要求への対応など、「活動の規模が大きくなればなるほど問題も拡大する」点を指摘するものもあった。業務範囲の拡大にともない責任の範囲が広がることによって、ボランティア内部で対応すべき問題点も増大するということであろう。

■ **図表 1-18 ボランティア活動で抱えている問題点、期待と違った点**（○は3つまで）



○ 活動時間の確保

- ボランティア活動をしたい気持ちがあって登録をしているものの、その時間を確保するのに苦慮している声も多く聞かれた。
- 具体的には、有職者が 3/4 を占めるという劇場・ホール系ボランティアの特性からもわかるとおり、「時間的にボランティア活動のための余裕がない」、「自由業なので仕事の時間を削ってボランティアをしている」、「土日にボランティア活動をすると休みがなくなってしまう」などという内容である。中には、「活動時間が夜間になったり長くなったりするため、家族の理解が必要」、「子育て中で、夕方の外出が難しくなった」という意見もあった。

このような状況のなかで、「特にない」という回答が25.4％あり、全体の1／4は現状にほぼ満足しているという見方ができる。